

## 教育課程改善のこころみ

—— 東京都千代田区立小川幼稚園 ——



小川幼稚園では昨三七年十一月に、新しい教育課程を作成しました。これは「おさなごとともに」と題された七九頁から成る、各年令別の年間週指導案（その一）と、六四頁にわたる教育課程作成資料・研究記録（その二）との二冊にまとめられています。この教育課程を、園長の斎藤敏夫先生、主任の桜井先生始め、幼稚園の先生がたから伺つたお話を加えながら御紹介いたします。

○ 教育課程改善の目的  
まえがきの中で斎藤先生は「幼稚園の教育計画の改善にとりかかったのは、今から数年前にさかのぼることができ、それは従来の教育計画が、伝統的なものに墮する傾きをもつたり、行事的なものに流

されるような姿がみえたからである。また単元活動と称して、長期にわたる活動計画が立てられたりして、教師のひとりよがりに陥るような点もあつたと考えられる。  
たまたま小学校では『一人ひとりの子どもをいかしし、確かな能力を培う』という教育方針をたてて、教育過程の大改造を行なつた。この教育方針は、ひとり小学校ばかりに通用するものではなく、幼稚園においても当然考えられなければならないことである。『一人ひとりの子どもをいかす』ためには、子どもの心をときほぐし、子どもたちが何らの抑圧感や劣等感をもたずく、明るく主体的に行動できるようを考えなければならぬ。また諸活動に熱中し、その能力が十分に發揮できる場面や、彼らの中に内蔵されている未知の可能

性を発見できるような場面が要求される。このためには、幼児の発達傾向の概要を押さえ、これに合致できるような教育計画をたてる必要になつてくる。……』と述べておられます。本園は小川小学校に併設され、斎藤先生は小学校の校長を兼任されています。斎藤先生は前述のまえがきを更に、次のように説明してくださいました。

「抑圧感より解放ということは、創造美術の人が言いたしたことなのですが、小学校で、子どもの劣等感、抑圧感を除き安定感を与える、即ち、言いたいことを言わせ、人の言うことも聞けるようにしたいと考えました。抑圧からの解放は、家庭関係、友だちとの関係、先生との関係の面から考えられます。このうち、先生との関係では、先生が子どもを理解し、自覚すればできます。子ども問題も、先生の指導力で調整することができます。社会的な面は、先生が学校の場において子どもを背負うことができます。しかし家庭的な面も、先生が子どもの家庭を理解し、認め、子どものありのままの姿をださせる」とができるのです。

創造美術の人は、解放ということだけを言

いますが、これだけでは能力は高まらず、成長しません。解放は教育の出発点です。これをどういふうに学習に結集していくかが問題で、指導原理が必要になります。

幼稚園においては、小さいから解放ということは特に必要で、幼稚園で安定感をもつ、家庭的雰囲気ということは大切なことです。

未分化な自己本意な存在が社会化されていく時代です。子どもが集団の中に入るいき方は、①個々が自分の席に安心してすわれる。②友だちと遊び出す。③行事などを通してグループ意識、更にクラスの意識をもち始めると、そして一年生に通ずる意識をもつ、といつた順です。そうすると、集団化の過程において、著しくみえる時期があるのではないかと考えました。」

### ○一年を四期に分けた理由

「この教育課程では、一年が四期に分けられています。このことについて斎藤先生は、ひきつづいて次のように語られました。

「個人差はありますが、大多数の子どもが社会化していく過程で一年を通じていつ一番変化するかを、幼稚園の先生がたに聞いてみ

ました。すると運動会の時だというのです。

ここは、小学校と幼稚園といっしょに十月の

初め頃運動会をします。幼児は、あとから参

加して、早く帰し、小学生よりずっと時間が

短かいのですが、この行事に参加することは幼児にとってたいへんなことなのです。その

前後を通じて子どもの行動に非常に変化がみられます。十月は一年の真ん中です。この大きな変化があるなら、もっと小さい変り目があるのではないかと考えました。そして四月

（五月、六月、七月、八月、九月、十月）、三月の四期に分けました。」

### ○教育目標（本文三頁より）

「……わたしたちは、子どもの中にある小さな願いや自主的な動きを見出し、守り育ててゆかなければならない。また、ほのかに見え始める社会性——そのあけぼのの光を注視して、晴れやかな朝の光としなければならない。それらはこの変転のはげしい社会に生活して、しかも人間性の喪失に立ち到らず、常に主体的にわが身を処し、さらに社会をよりよくしていく能力の萌芽であるからである。ゆえに小川幼稚園はつぎの教育目標を持つ。

#### (1)自主性を育てる

(2)創造性を高める

(3)社会性を伸ばす

(4)身体的発達を助長する

### ○教育方針（本文四頁）

「教育目標を達成するため、わたしたちはつきの方針を持つ。

(1)子どもの心をときほぐす。……

幼児の持つ特定の人に対する依存心、排他性、閉鎖的傾向をとり除くため、常に明るい雰囲気をつくり、子どもの発言や行動を尊重し、自信を持たせ、自主的な

生活の足がかりとし、更にその中に芽生える友だち関係意識を助長して健全な社会性に高める。

(2)いろいろな経験を与える。かつてフレー

ベルが言ったごとく、創造的自発活動

は、遊戯やいろいろな教材にふれるこ

により、その発展を見ることができる。

子どもの発達に即した、工夫された遊戯、教材を与えて経験を深め、その中で自ら芽生える創造性、可能性を育てる。

(3)健康な生活の基礎的習慣をやしなう。心的子どもの心のときほぐしは、子ど

もの自由な活動を生みだす。その活動を戸外のまたは室内的楽しい運動に結びつけて健康な生活習慣をやしない、一方給食等を通して、発育に必要な食事摂取の態度をそだて、身体的な発達に役立てる。

(4) 発達の契機をとらえた指導をする。……幼児の生活を見ると、その速やかな発達に段階があることに気づく。新入児も適応のための一時機がすぎると、その生活態度や行動が日に日に新しい進展を見せ、驚くこと一再でない。そこで、発達の特質の上から年間を四期とし、それに適合した指導計画をたて、その計画に基いて指導を実施する。

#### 第一期 四月～五月 適応の時期

#### 第二期 六月～九月 伸長の時期

#### 第三期 十月～十二月 充実の時期

#### 第四期 一月～三月 次への準備期

けられず園全体のものが多かったのです。しかし知能テストなどで感じることは、五才児と六才児（一年）との差と、四才児五才児との差を比べると、後者の差の方が大きく、五才児六才児との差と、六才児七才児との差とでは後者の方が大きいということです。わたしたちは慣習として、四、五才の幼稚園児と、六、七才の小学生というよう分類をしますが、むしろ、五才の幼稚園児と、六才の一年生とを一しょに考えた方がよいということになります。これは推定ですが、四才、三才の差の方が、五才、四才の差より大きいのではないかと思ひます。このことから、各年令別の教育過程が是非必要ということになり、年令別に作成しました。

#### へその二について

また一年を四期に分けましたが、この期間に子どもがどういうふうに変るか、その変り方、各領域についてはどういうふうにあらわれるかを調査しました。各先生方のこまかい記録に基づいて作られたのが「その二」の作成資料、研究記録です。

#### △教育課程

斎藤先生はまた、次のように語られました。

#### △年令別について

「今までの教育過程は、ほとんど年令別に分

元）があげられました。これはおかしいのではないか、単元または材料、主題は、子どものが続くものでなくてはならないと思ひます。三才児などでは、一週間のうち一日一日が区切りではないかと思います。

(2) 今までのは、主題活動のみしかあげられていませんでした。しかし子どもの活動をよく見ると、主題活動以外の活動も見られます。それでは主題以外の活動は、悪く言えば先生のその時の感じにまかせるのか、ということになります。それで、主題以外の活動も、計画の中に入れました。

(3) 小川幼稚園では完全給食を行なっています。それで給食指導ということも、計画の中に入れました。

#### ④ 基礎的習慣形成ということは、先生がた

は、意識しなくともやっていますが、忘れてはいけないこととして、これも計画的におさえようと思いました。

#### △作成資料、研究記録（その二）

次に「その二」の概要を本文をあげながらご紹介しましょう。

全体の指導目標が、情緒の安定、社会、知能、健康安全、その他の五項目に分類してあ

げられ、それらについての指導を、六領域、健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作の中に盛り込むよう工夫されています。また各年令別に、四期に分けて、各領域ごとに、指導目標、指導内容と教材があげられています。

團生活へとけこんでいるか、私の最も関心のあるところでした。以下、各期における実態と指導について述べます。

## 2、各期の成長過程—その実態と指導

### A 第一期（四～五月）

#### (1) 子どものすがた

四一頁からは各先生の子どもの記録です。  
「三才児の成長をたどって」（四一頁～四七頁）

三才児担任の新田先生は、はじめて三才児を受け持つた時、先輩の残してくれた綿密な子どもの記録が、たいへん役に立つた前置きされて、次のように述べておられます。

「人間が人間らしく生きる以前に、これだけは絶対に欠かせないというものに何があるでしょうか。それは食事や排便です。三才児を受け持つて、与えられた課題第一がこれだったのです。教育要領にあるような六領域のことではなく、それより一歩さがった生活ができないければ、社会生活、集団生活に入れないとということです。……このような三才児が最も抵抗を少なくし、どのような過程を通じて個人生活から集

#### (2) 考察と指導

##### a 孤立状態

・不安な様子がどの子にも見られ、付添から離れる時に泣き出すもの三分の一。

・教師が問い合わせれば首をふってうなずく程度の意志表示をするだけで、それ以外立たせれば立つたまま、坐らせれば坐つたままのN・K。

・U・K のひとりごと、——「ママ来る？」「オジイチャン来る？」「ママドコニイッター？」「オウチニ帰リタヨー。」繰りかえし、帰宅時まで続く。

b 排便について

・「家の子はズボンを全部ぬがないとしないんです。」N・T の母親

・便器にまたがせると、ベッタリとしりもちをついて用を足すN・K。この子

×教師の動作やコトバができるだけゆっくりし、大きな物音をたてたりしておどろかさないようにした。

×いつも笑顔で話したり、一日にひとつは楽しい思い出になるようなことを考えておいた。……

×おもと子どもの体にさわってあげた。

×まず安心感をもたらすことからはじめた。

×おもと子どもの体にさわってあげた。

どもの家は洋式便所だそうである。：

の頭の中へしみこむようである。

×教師の指示や質問にかんたんなコト

バで答えさせた。

「けさ、だれと一しょに来たの？」

「オカアサン」

×家庭連絡をし、幼稚園入園前と、入

園後のコトバのちがいなどを知らせてもらひ、その後の指導の資料にも

した。」

このようにして少しづつ幼稚園の生活に慣れてきた子どもたちは、次第に自我を発揮するようになります。即ち第二期六ヶ月頃からケンカがあらわれます。

「……ケンカの実態は、ひつかき合いの多

いことだ。それもたがいの顔をひつかくのである。まだまだコトバでやりとりができる

ので、つい実力行使いでてしまうのだ。  
第三期（十一月）には、個人個人の生活から、友だちを意識しながら遊ぶようになります。「Mチャンハ、強イモノンナ」と友だち同志の力の強さも較べられるようにな

り、ケンカも、今では取り合いつことなど原

因であり、一対一だけの争いであったケンカが、ひとつのケンカにみんなが関心を持ち、

が、ひどいケンカにみんなが関心を持ち、

応援するようになります。

このようにみんなが関心を持った時など、少しずつ考えさせるようにしむけました。

「三才児に話し合いは高度だと、よくいわれ

るが、内容によつては、みんなで考えられるものである。もちろん三才児という年令から

考えて、教師中心のものではあるが。」

こうして各自の語い量が豊富になり、思つていたことが言えなかつた子も、必要最少量

のことは話すようになり、友だちの面倒を見る余裕ができ、四・五人のグループ遊びができるようになります。遊びそのものは単純ですが、おたがいにコトバのやりとりをしながら遊べるようになります。

「絵画指導の記録を追つて」（四八・五三頁）

高橋先生は四才児について、ひとりの子どもK子を中心に、幼稚園という環境の中で、

① a 黒板や地面にチョークでかいて遊ぶ。

b チョークを持たせても傍観。

c この頃は、いつも自席に坐つて、教師

に誘われて初めて外へ出る状態。

② a クレヨンで好きな絵をかく。

b 意味のない線がきで、使用するクレヨンも色が限られている。

c 口数は少ない。幼児音、幼児語が残つ

ている。

③ a ドウフ粘土で遊ぶ。

の活動を傍観していたり、ときにはぼんやり

クラスの動きをみている。泣いたのは一度だけ。ことばの発達は他の子と比較して、ひじ

ょうに遅い。」

このK子の記録を四月から十一月まで

教師の指導 主な絵画経験……a

K子の成長・変化

絵画製作面における変化……b

K子の行動記録から……c

ど、指導と変化（b・c）の面から、記録さ

れています。経験は二七項目にわたつていま

す。その周囲にはK子の絵もあげられています。

四月

① a 黒板や地面にチョークでかいて遊ぶ。

b チョークを持たせても傍観。

c この頃は、いつも自席に坐つて、教師

に誘われて初めて外へ出る状態。

② a クレヨンで好きな絵をかく。

b 意味のない線がきで、使用するクレヨンも色が限られている。

c 口数は少ない。幼児音、幼児語が残つ

ている。

③ a ドウフ粘土で遊ぶ。

bひとりで、おだんごを作つてよろこぶ。

c自分からは遊びの仲間に入れないでいる。

あると思われたからです。  
しかし三年保育で進級した子どもには、造形的に不安定なドウフ粘土には、あきたらぬい風が見えます。……

④ a 友だちといっしょにクレパス・画を大きな紙にかく。

bほんの少しクレパスを動かしただけでやめてしまう。

c見送りの人と門の所でわかれることができる。

六月

① a 友だちといっしょにクレパス・画をす。

る。

b Y子に誘われて、その隣にかき始め

る。

c朝早くから幼稚園に行きたがるという」とである。以下略

考察

……不安な心理状態にある子の新たな新入の子どもにとって、ドウフ粘土のようなものは、適切な材料であると思います。これは普通の粘土のような不潔感が少なく、着色がきれいいでとつつきいいし、不安な心理状態を助長する手持ちぶさたを救うのに大へん効果が

どのような事がたで遊び、成長していくか。

五才児については原田先生が、子どもの逸話記録を中心にかかっています。

#### A 第一期（四～五月）

④ 記録より（男 A B C ……女 a b c ……）

「動物園ごっこ」

場面—校舎東側の遊び場

内容—モルモットを通じての遊び

新入児の遊びへの加わり方

プレイスカルブチャーハーの下に木箱で囲いを作り、兎、モルモットが入れてある。

『せんせい、モルモットかしてくれないの』

教師『お友だちと、よくたのんでごらんなさい』程なくGはMとともにどつてきました。

M『だめだよ、せんせい』

後についていってみた。

教師『今日は、Gさんがモルモット抱きたいのですって』

b子『だめ。ここはどうぶつえんだから』

教師『動物園で、どうするの』

B『みるだけ』

G『動物園のばか、ばか、ばかやろう!』(新入児)

B、b子、N、Hは、びっくりしてGの顔

をみた。Gは額に『八の字』をよせ、『ばか』

を連発。誰もが、むつとしてモルモットを貸

そうとしない。

教師『あなたも、動物園に入れてもらうとい

いわね』G、ふくれていつてしまふ。

教師『よくできているのね。でも、兎が出た

がっているわ』

H『だいじょうぶ。ここ、いたでおさえてあ

るよ』

N『Nがバケツをもって、いきなりかけだす。

教師『どうするの？ Nさん』

N『これ、えさいれるの』

やがて給食の野菜くずを入れてもどつてき

た。

教師『あなたは動物園の何？』

N『えさやるひと』

b『あたしみはり、うさぎみはっているの』

d子『いれてー』

i子『はいる（新入児）』

B『よし、いれてやる』

c子『ここ、みてごらん。モルモットみえるか

ら』と板をどけて箱のぞかせる。すかさず  
兎がとび出し、ぴょこりびょこり砂の上を逃

げまわる。皆、あわてて追いかける。……

…………

年間三九週の年令別週案です。次に各週の

この子どもたちは、二期になると友だちと相談したり、意気投合したりして、大勢で遊びを发展させるようになります。話し合って

遊びの約束をきめることはできますが、実行できる子と、むづかしい子がいます。

木こりごっこ、海中たんけん、つりぼりご

すこと、色々のあそびを経験して第三期に入ると、運動会後は、グルーブあそびも深まり、いく日も同じ遊びがつづいたり、計画的

な遊びがみられるようになります。一方ボスが現われ、嫌われながら暴力でおさえたり、時にはグルーブから脱落するものがでたりし

ます。

第一期に級から離れ、独自な行動をしてい

たCが、二期にはグルーブ遊びを楽しむよう

になりました。Cは知能がすぐれ、積極的に遊びに参加するが、協調性に乏しく、教師の

前では善良であるが、蔭で友だちをいじめる

ことが多いのです。グルーブリーダーは人望

のあるBでなく、Cで、級全員がCに一目お

いています……。

c子ちゃんはふざけるし、b子ちゃんはな

んかい『ごめんなさい』してもゆるさないし

…………

c子ちゃんはふざけるし、b子ちゃんはな

んかい『ごめんなさい』してもゆるさないし

…………

が（その一）です。

「以上のように『五才児のなかよしの姿』を追ってきたが、いくつかの問題点が考えられる。

…………

×グルーブ遊びがよく行なわれているかにみえて、実はリーダーをとりまく子たちは、従の立場に安んじていはしないか。

×グルーブからこぼれがちな、子どもの指導者ボスが、好ましいリーダーとなるよう導くこと（子どもたちの協力）などこれらは、第四期もひきつづいて指導していくことである。

「幼児の健康管理」については、養護教諭の渡辺先生が（六二頁～六三頁）、「給食について」は栄養士の森先生が（六四頁）それぞれ書いておられます。

#### △幼稚園教育課程（その一）▽

この幼稚園では、各先生は各自のクラスを三年間もたれて、各年令について研究されたペテランぞろいです。その先生方が、右にあげたような綿密な記録に基づいて作成されたのが（その一）です。

主題を一部あげてみますと、

九月二週 三才～五才 しょくぶつえん

三週 (三才)

四才 おつきさま

五才 お月見

四週 三才～五才 うんどうかい

五才 お月さま

六週 (三才 かけっこ)

四才 はり絵

五才 おもちゃつくり

三週 三才～五才 おいもほり

四週 (三才 セいさくあそび)

四才 うたあそび

五才 お話をそび

十一月一週 (三才～五才) ことどもどうぶつえん

二週 (三才) うさぎとかめ

四才 おはなしあそび

五才 ことどもどうぶつえん

十二月一週 (三才～五才) ことどもどうぶつえん

二週 (三才) うさぎとかめ

四才 おはなしあそび

五才 ことどもどうぶつえん

一月一週 (三才) おひさま

四才 きれいなおへや

五才 ゆうびんごっこ

三週 (三才 木馬あそび (でんしゃご))

四才 ゆうびんごっこ

五才 おくじょうのかだん

六週 (三才 ふれあい)

七週 (三才 まきこみ)

八週 (三才 まきこみ)

九週 (三才 まきこみ)

十週 (三才 まきこみ)

十一週 (三才 まきこみ)

十二週 (三才 まきこみ)

十三週 (三才 まきこみ)

十四週 (三才 まきこみ)

十五週 (三才 まきこみ)

十六週 (三才 まきこみ)

十七週 (三才 まきこみ)

十八週 (三才 まきこみ)

十九週 (三才 まきこみ)

二十週 (三才 まきこみ)

二十一週 (三才 まきこみ)

二十二週 (三才 まきこみ)

二十三週 (三才 まきこみ)

二十四週 (三才 まきこみ)

・品物をつくる。  
・遊び方を考える。

・お店をつくる。  
・役割をきめる。

・お金、看板、表示などをつくる。  
・お店につっこをする。

・店の人、お客様になつて売り賣いする。

○おもちゃ遊びをする。

・「おもちゃのマーチ」

・「おもちゃ屋さん」

・「おもちゃのマーチ」

・品物をつくる。

・遊び方を考える。

・お金をつくる。

・お店をつくる。

・役割をきめる。

・お金、看板、表示などをつくる。

・お店につっこをする。

・店の人、お客様になつて売り賣いする。

○おもちゃ遊びをする。

・「おもちゃのマーチ」

・「おもちゃ屋さん」

・「おもちゃのマーチ」

五才 十二月 二週

六才 ゆうびんごっこ

七才 おくじょうのかだん

八才 ゆうびんごっこ

九才 おくじょうのかだん

十才 おくじょうのかだん

十一才 おくじょうのかだん

十二才 おくじょうのかだん

十三才 おくじょうのかだん

十四才 おくじょうのかだん

十五才 おくじょうのかだん

十六才 おくじょうのかだん

十七才 おくじょうのかだん

十八才 おくじょうのかだん

十九才 おくじょうのかだん

二十才 おくじょうのかだん

二十一才 おくじょうのかだん

二十二才 おくじょうのかだん

二十三才 おくじょうのかだん

二十四才 おくじょうのかだん

二十五才 おくじょうのかだん

二十六才 おくじょうのかだん

二十七才 おくじょうのかだん

二十八才 おくじょうのかだん

二十九才 おくじょうのかだん

三十才 おくじょうのかだん

三十一才 おくじょうのかだん

三十二才 おくじょうのかだん

三十三才 おくじょうのかだん

三十四才 おくじょうのかだん

三十五才 おくじょうのかだん

三十六才 おくじょうのかだん

三十七才 おくじょうのかだん

三十八才 おくじょうのかだん

三十九才 おくじょうのかだん

四十才 おくじょうのかだん

四十一才 おくじょうのかだん

四十二才 おくじょうのかだん

四十三才 おくじょうのかだん

四十四才 おくじょうのかだん

四十五才 おくじょうのかだん

四十六才 おくじょうのかだん

四十七才 おくじょうのかだん

四十八才 おくじょうのかだん

三十九才 おくじょうのかだん

四十才 おくじょうのかだん

四十一才 おくじょうのかだん

四十二才 おくじょうのかだん

四十三才 おくじょうのかだん

四十四才 おくじょうのかだん

四十五才 おくじょうのかだん

四十六才 おくじょうのかだん

四十七才 おくじょうのかだん

四十八才 おくじょうのかだん

四十九才 おくじょうのかだん

五十才 おくじょうのかだん

五十一才 おくじょうのかだん

五十二才 おくじょうのかだん

五十三才 おくじょうのかだん

五十四才 おくじょうのかだん

五十五才 おくじょうのかだん

五十六才 おくじょうのかだん

五十七才 おくじょうのかだん

五十八才 おくじょうのかだん

五十九才 おくじょうのかだん

六十才 おくじょうのかだん

・品物をつくる。

・遊び方を考える。

・お金をつくる。

・お店をつくる。

・役割をきめる。

・お店につっこをする。

・店の人、お客様になつて売り賣いする。

○おもちゃ遊びをする。

・「おもちゃのマーチ」

・「おもちゃ屋さん」

・「おもちゃのマーチ」

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

○動くおもちゃなどは、あらかじめ観察させておく。

主題以外の活動以下略

#### △本教育課程と実際指導について▽

この教育課程を実行された時に問題点や、修正したい点などありましたかとの質問に対して諸先生方は次のように語られました。

1. 毎年、男女の比率、生まれ年の早さ、人數などが違います。例えば、男児が非常に多く活動的なあそびを好む年などは、静的なあそび（人形ごっこ、ままごとごっこなど）を主題としている週には工夫が必要です。（全く主題をかえないで扱い方を工夫）
2. 「えんそく」などが主題の週に雨が降ったりしても工夫が必要です。今年などは、たびたび天候に左右されました。朝までお天気で皆がえんそくの用意をして集まり、急に雨が降つて来て、子どもの状態が、その期待を何かの形で満足させる必要がありましたので、皆で講堂に集まって、一日楽しく遊びました。これは成功でした。

3. 教材や遊具なども毎年新しいものがどんどんでます。これも新しく取り入れた場合、

調案の実施に工夫が必要です。

また時々目標が多すぎませんかと質問されますが、扱うときダイナミックに扱いますので多すぎると感じません。

4. 三才児の始めから、クレヨン（四月）ボスター、カラーマジック（五月）フィンガーペイント（六月）ねんど、はさみ、のりなどいろいろな教材を使わせることに対して先生は、かえって三才の方が抵抗を感じなくてすみます。物事を批判せず、先生のさそいかけに素直にのってきます、と話されます。
5. 三才児の共同製作

今頃（六月下旬）ようよう、友だちと一緒に先生の後、友だちの後といいう歩き方がわかつきました。まだ個人個人の集まりですが。（へやは、共同製作としての絵がはつてあつた。一人ひとりが自分をかいている。大きのびのびした絵。その一列に横に並んだ子どもたちの上から雨が降っている。）

6. その他

どの先生も、子どもの状態を考えて、この計画をダイナミックに扱われるでの、あまり問題を感じておられないとのことでした。

この先生も、子どもの状態を考えて、この計画をダイナミックに扱われるでの、あまり問題を感じておられないとのことです。  
が、四・五才になると、これがまずい、あれがまずいと言います。

はさみももたせて大丈夫です。隣りがうまくできているか気になりません。半分やぶくようでも、自分でできれば喜んでいます。自己中心的で、他と比べてどうこうしません。主体が確立されていない。自己意識ができるない時代です。歌も皆の前で平気で歌えます。